SUMITOMO

住友建機 リサイクル紀行

Vol.51　高橋金属（群馬県）

群馬県南部に位置し、埼玉県と隣接する伊勢崎市は、古くから養蚕が盛んに行われ、明治時代には繊維産業のまちとして発展を遂げた。近現代は北関東有数の工業都市としても知られる。都市部と結ぶ鉄道や高速道路などの交通網が充実しており、生活のしやすさも相まって近年までは人口増加が続いた。伊勢崎市内に3つの拠点を構え、金属リサイクル業を積極的に展開する高橋金属（本社＝伊勢崎市田部井町、高橋仁傑社長）を訪れた。



集荷・販売に多角的なルート
口コミで評判広がり急成長

群馬、栃木、埼玉を中心として茨城や長野に至るエリアを対象に金属スクラップの集荷販売を行う高橋金属は、非鉄金属を主力として月間2００ﾄﾝ規模のスクラップを扱う成長著しいリサイクラーだ。銅や真鍮、ステンレス、アルミニウム、鉄といった、集荷した多様な金属スクラップを豊富なノウハウをもとに適切に選別・加工して、付加価値が高い金属原料をユーザーに供給している。

会社は2015年3月に個人商店として創業、2017年3月に法人化した。事業拡大に伴い、5年前に本社近くに第二ヤードを、3年前に第三ヤードを開設している。

事業規模や業績は急速な成長を遂げているが、高橋社長は「売上や利益を優先していない。むしろ、損して得を取るというスタンスで仕事をしている」と語る。自身の経営方針は「取引先の利益になってこそ商売は成り立つ」というものだ。自社だけが得をすることを決して是としない。比較的若い会社ということもあり、適正な値付けやユーザーの幅広い要望に迅速に対応するなど実直な商売を続けて独自性を高めている。高橋社長は「お金には無頓着で趣味も仕事。家でやるスマホゲームも課金しない」と笑う。ごまかさずに、正直に商売を行いながら、ユーザーの要望に一つひとつ対応する。その為の勉強や研究には余念がない。持ち込み客に接する事務所やスタッフの対応も気さくな雰囲気にあふれている。

集荷だけではなく、販売ルートが多いことも会社の強みだ。販売においても相互利益を重視しており、基本的に商社を通じてメーカーやスクラップ問屋に荷物を供給しているという。

「相談すれば対応してくれる」というビジネスにおける高橋金属の姿勢がユーザー間に口コミで広がり、販売面においての仲間や取引先も増やしていった。

来年で設立10年を迎える会社は次のフェーズに移行する。条例や改正法など、ヤード規制の強化においては「環境面での投資はいとわない」（高橋社長）と、対応の必要性を指摘する。同時に、地場企業や周辺の同業者との対話や取引を増やしていく方針だ。環境投資を含む時代への対応と地元に根差した企業づくりが、次の時代のテーマになる。


本社工場（群馬県伊勢崎市）

一心一意で仕事に取り組み
「日本で信頼される企業に」


高橋仁傑社長

高橋仁傑社長は1984年10月、中国・ハルビン市生まれの42歳。大学卒業後、結婚を機に2008年に来日し、金属リサイクルの現場で仕事をしながら日本語やスクラップを学び、必要な資格を取得していった。子育てなどの生活環境や関東の広いエリアを事業面でカバーできる群馬を気に入り、2015年に伊勢崎市内で個人商店を興した。

当時は全てが一からのスタートだった。高橋社長とともに会社を立ち上げた妻の友子さんは、立ち上げから数年は会社として苦難の時期を過ごしたという。自らパートと掛け持ちすることを提案したこともあったが、高橋社長からは「目の前の事を全力で、一つひとつしっかりこなしていこう」と励まされた。一心一意の精神で取り組み、次第に評判が口コミで広がっていった。ようやく事業が軌道に乗り始めたのは3年が経過した頃だった。

高橋社長は「日本で仕事をやる以上は、日本の人たちからの信頼を得ることを意識して仕事をしてきた。実際に現在の取引先の多くを日系企業が占めている」という。

事業基盤を強固なものとするために人員の確保も強化していく。ここでも、労働時間や働き方の多様化など、今の日本の時代に即した方法を取り入れていく方針だ。

～住友建機がある風景～


SH250-7MP：2026年10月現在、高橋金属で稼働する住友建機は11機を数える。本社工場の「SH250-7MP」は大型のスクラップを捌く同社の主力機として活躍している。（本社工場）

◀工場で稼働する荷役機の動画はコチラ

8型機、群馬県で初導入

高橋金属は2027年2月に住友建機『SH250-8MP』を導入する予定だ。群馬県初の8型ショベルシリーズとなる。前回からフルモデルチェンジした8型シリーズは2025年8月に標準機で先行リリース。今年1月に金属リサイクル向けのマテリアルハンドリング機をリリースした。7型機に比べて作業中の揺れを約28%低減（※住友建機調べ）するなど、安全性と快適性を高めた仕様になっている。高橋金属において、住友建機の荷役機はこれで12機目となる。

高橋社長は住友建機を選ぶ理由について「営業スタッフや機械を含めて最初はフィーリング（直感）だった」といい「導入後のパフォーマンスを見ても間違いが無かったことが証明できている。今ではあって当たり前の存在だ」と太鼓判を押す。


SH200LC-7EC（第三工場）


SH120-7（第三工場）

自社に導入する機械類についても相互利益の精神を大切にする。決して無理強いはせずにサービスや機械のパフォーマンスへの対価を払う。その期待に住友建機も応えている。

担当：髙田 拓

ユーザー様にお役立て頂けるよう、住友建機・群馬支店のサービスとセールス一同、これからも精進してまいります！



住友建機販売株式会社　群馬支店
〒371-0854 群馬県前橋市大渡町1-20-14
Tel：050-9002-5439　Fax：027-253-7495